

# 保護林管理委員会委員による現地確認

(1) 場所：大隅森林管理署管内 大隅半島緑の回廊／稲尾岳周辺森林生態系保護地域（保存地区）

日程：令和4年10月6～7日

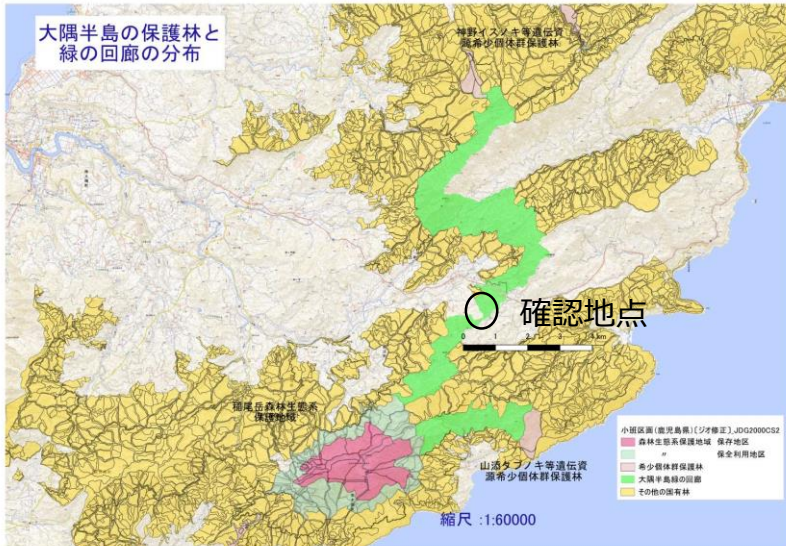
参加委員：米田委員長、鈴木委員、横山委員

目的と概要：

①緑の回廊において、回廊幅について表現の妥当性、狭小区間の機能、タカ渡りルートについて検証・確認  
現地確認した、狭小区間に近い3045る林小班（標高612m付近）はスギ人工林であるものの、林内は明るく、下層の種多様性が高く、広葉樹林に準じた保全機能が期待できる。幅の表現についても、このような林相であれば順応的管理で、広葉樹林へ導けばよいため、現在の修正表現「500m以上の幅を目安とする」が良いと思われた。

②令和3年度保護林モニタリング調査の調査及び評価の結果の妥当性について現地確認  
令和3年度のモニタリングプロット1箇所（P14005）と保存地区を踏査、状況確認した。  
いずれも当地の立地環境をよく反映した森林と評価でき、令和3年度の調査及び評価は妥当であると判断できた。

## 【大隅半島緑の回廊現地確認の状況 10/6】



位置図



大隅署3045る林小班 緑の回廊



## 【稲尾岳周辺森林生態系保護地域の現地確認（10/7）】



P1:観察ルート入口。P2:モニタリングプロット  
P14005)。P3:滝ルートで観察できた最終地点（標高  
807m）。



大隅署3054林班 モニタリングプロット14005



大隅署3053た林小班（保存地区 八丁坂付近）



岩を抱くヤマグルマ

(2) 場所：霧島山生物群集保護林内、三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林、猪八重照葉樹林生物群集保護林

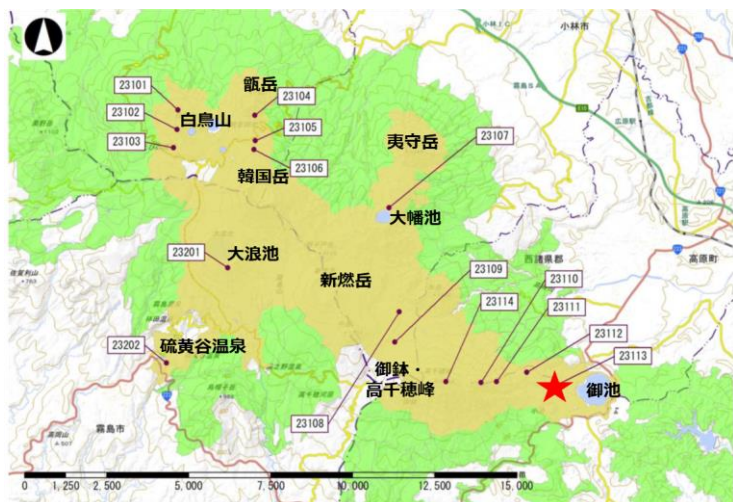
日程：令和4年11月16～17日

参加委員：岩本委員、河野委員、久保田委員、野中委員

目的と概要：

- ①令和4年度モニタリング箇所を現地確認し、管理方針のイメージの補助とする。
- ②シカ被害レベル3程度の霧島山と、シカのフロントラインとなっている宮崎自動車道以南に位置する被害レベル0の猪八重及び三ツ岩の保護林を現地確認し、シカの植生への影響を認識。  
霧島山では、高木層の実生・稚樹やアオキ等は見られず、植生保護柵に隙間が確認された。調査結果ではシカ被害レベル3と評価されており、柵（ネット）の点検・補修が必要と思われた。  
三ツ岩オビスギは樹齢400年生のスギ人工林であるが、下層の種多様性は高く、アオキが繁茂しており、シカ被害レベル0の状態を確認できた。  
猪八重ではイチイガシ巨木が優占する原生的な照葉樹林が見られる、プロット6及び8周辺を確認。シカによる影響はなく、調査結果では森林生態系が健全に維持されていると評価。しかし、付近の人工林ではシカの侵入が確認されており、警戒を続ける必要がある。

## 【霧島山生物群集保護林の現地確認の状況 11/16】



位置図



御池に遠く望む高千穂峰



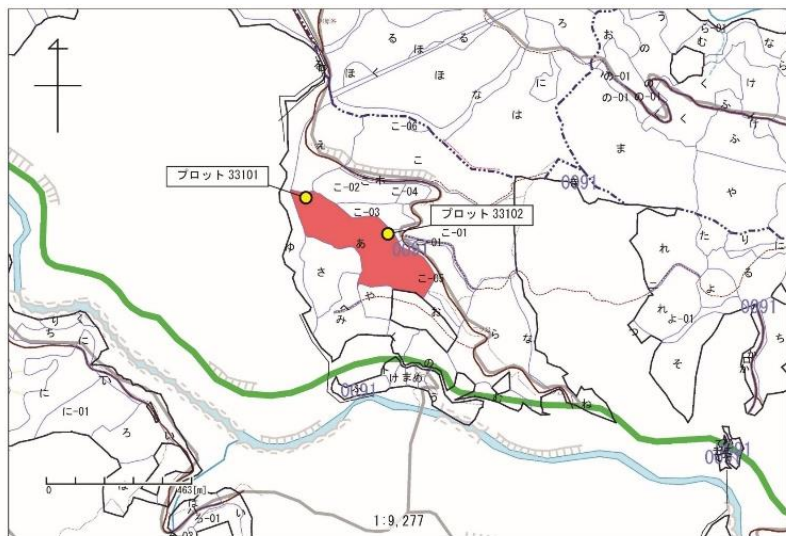


令和4年度モニタリングプロット（霧島山No23113）



植生保護ネット内にシカが侵入し植生が回復していない

【三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林の現地確認 11/17）】



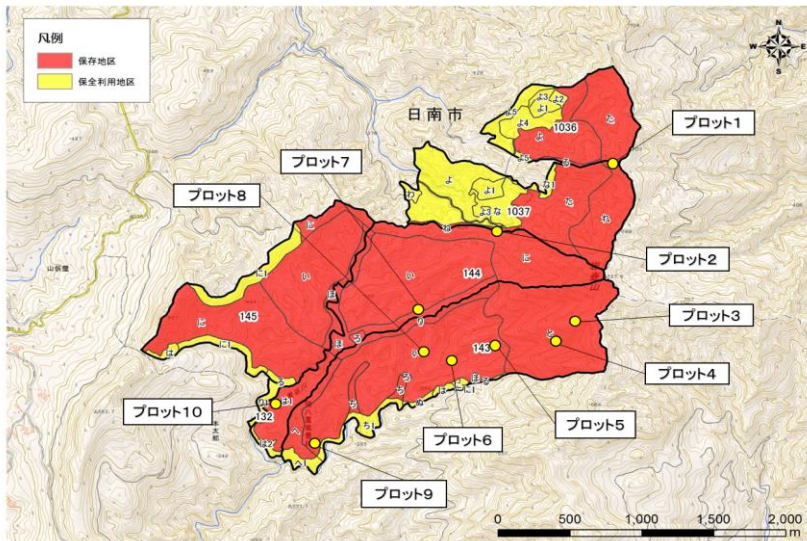
位置図



アオキが繁茂した林内の状況



【猪八重照葉樹林生物群集保護林の現地確認 11/17)】



位置図



保護林内で多く見られるイチイガシ大径木

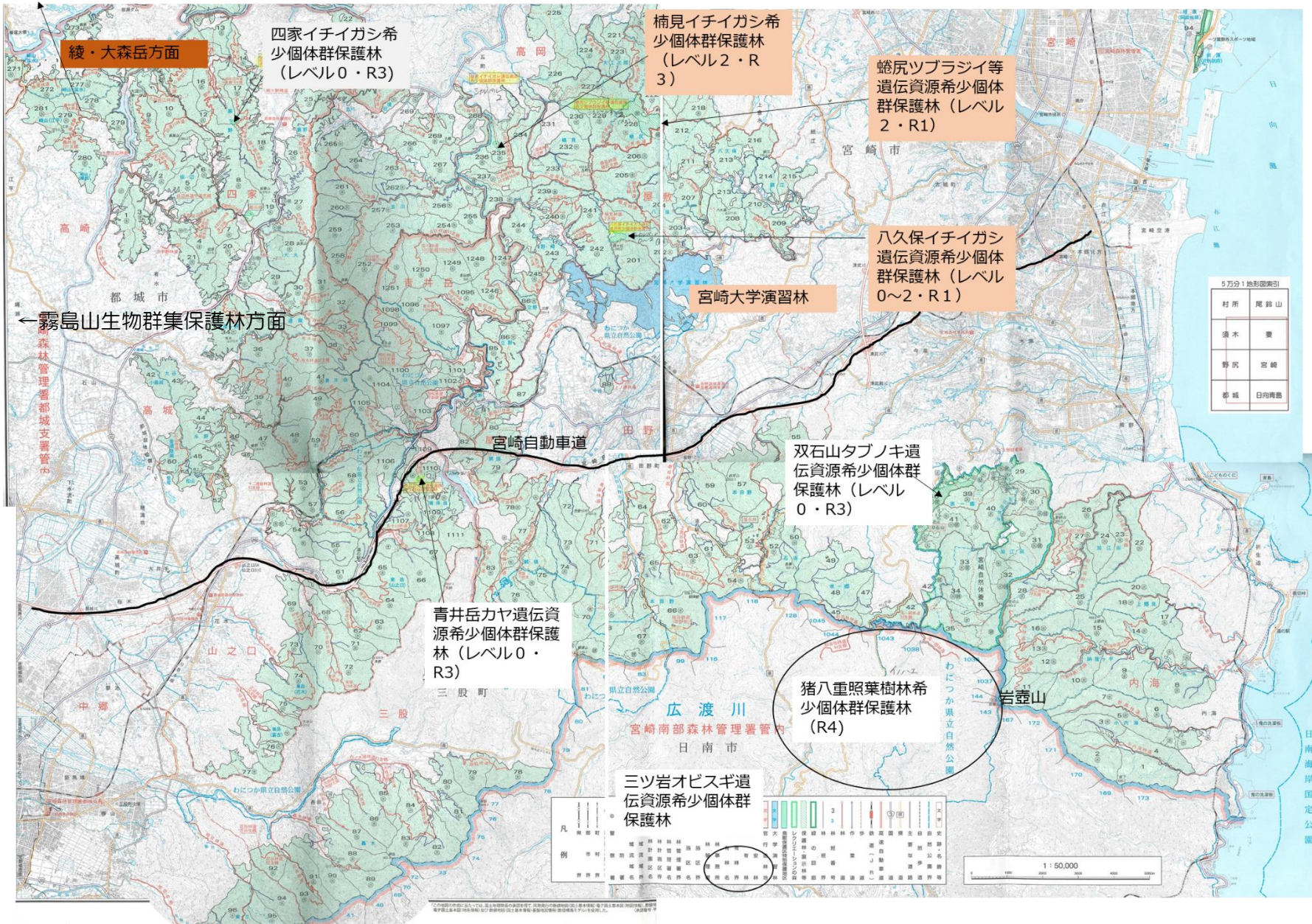


令和4年度モニタリングプロット（猪八重No8）



保護林内で確認したツチトリモチ





各保護林とフロントラインの位置関係